

学校コード F114210111993
注3

設置年度 令和 令和5年度
計画の区分： 大学の設置
注1

認可

注2
川崎市立看護大学 看護学部 看護学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

川崎市
令和5年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	企画調整担当
職名・氏名	カチョウ セキ ヒロフミ 課長 関 広文
電話番号	044-587-3534
(夜間)	同上
e-mail	40kangoj@city.kawasaki.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	38
7. その他全般的事項	40

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

川崎市

(2) 大学名

川崎市立看護大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒212-0054

神奈川県川崎市幸区小倉4丁目30番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(該当なし)		
学長	カト ノボル 坂元 昇 2022年4月1日		
学部長	アキタ ミカ 荒木田 美香子 2022年4月1日		
学科長等	(該当なし)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4 年	100 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	400 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A	入学定員	() []	100人 (-) [-]	100人 (-) [-]	1.00倍	-	1.00倍	-											
	志願者数	() []	770 (-) [-]	636 (-) [-]															
	受験者数	() []	611 (-) [-]	354 (-) [-]															
	合格者数	() []	108 (-) [-]	112 (-) [-]															
B	入学者数	() []	101 (-) [-]	100 (-) [-]															
	入学定員超過率 B/A											1.01	1.00						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、**編入学の状況について外数で記入**してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **転入学生は記入しないでください。**
- ・ []内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの**平均入学定員超過率**を記入してください。計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の**平均入学定員超過率**を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の**控除後の「平均入学定員超過率」**を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する**学生数の割合**を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の**収容定員充足率**を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により**修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」**を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期											
1年次	[] ()	101 (-)	[] ()	100 (-)	[] ()								
2年次	/		[] ()	100 (-)	[] ()								
3年次			/		/		[] ()						
4年次	/						/		/		[] ()	[] ()	[] ()
計			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()					[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、**留学生の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、**春季入学**と**その他の学期**(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。**
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した**在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	101 人	1 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	1 人	人	就学意欲の低下
令和5年度	200 人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		1 人		1 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{101} = \boxed{0.99} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{200} = \boxed{0} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) - ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
科学的 基盤的思考	クリティカルシンキング	1前	2			1						兼1	
	医療経営学	1前・2前		2									
	情報処理Ⅰ(基礎)	1前	1			1							
	情報処理Ⅱ(発展)	1後	1			1							
	小計(4科目)	-	3	3	0	1	1	0	0	0		兼1	
	環境と 社会	総合講義	1前	1			3						
		川崎市の文化と科学	1前	1			2						
		サービスマーケティングⅠ(基本)	1後	2			1		1				兼1
		サービスマーケティングⅡ(実践)	2後	2			2		2				
		教育学	1前・2前	2			2						兼1
比較文化論		1後	2			2						兼1	
日本国憲法と法		1前	2			2						兼1	
小計(7科目)	-	4	8	0	4	0	2	0	0		兼4		
人間の 理解の 基礎	生涯発達論	1前	2									兼1	
	臨床心理学	1後	2									兼1	
	生活と人間工学	1前	2									兼1	
	健康科学Ⅰ(理論)	1前	1									兼2	
	健康科学Ⅱ(実践)	1後・2後	1									兼1	
	音楽	1後	2									兼1	
	キャリア論	3前	2									兼1	
小計(7科目)	-	9	3	0	0	0	0	0	0		兼7		
語学	英語Ⅰ(講読基礎)	1前	1									兼1	
	英語Ⅱ(会話基礎)	1後	1									兼1	
	英語Ⅲ(講読応用)	2前		1								兼1	
	英語Ⅳ(会話応用)	2後		1								兼1	
	中国語Ⅰ(基礎)	1前		1								兼1	
	中国語Ⅱ(発展)	1後		1								兼1	
	医療英語	3前		1								兼1	
	小計(7科目)	-	2	5	0	0	0	0	0	0		兼3	
人体の 構造と 機能	人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理:筋骨格,消化器,泌尿器,生殖器)	1前	2					1				兼1	
	人体構造機能学Ⅱ(解剖と生理:循環器,呼吸器,神経,感覚器)	1前	2					1				兼1	
	人体構造機能学Ⅲ(解剖と生理:生命活動と代謝)	1後	2					1				兼1	
	人体構造機能学Ⅳ(演習)	1後	1					1				兼1	
	小計(4科目)	-	7	0	0	0	0	1	0	0		兼2	
	疾病の 成り立ち と回復の 促進	病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)	1後	2			1						兼2
		病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)	2前	2									兼5
		病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)	2前	2			1						兼2
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)	2後	2									兼6
		病態生理学Ⅴ(生殖器系・小児科)	2後	2									兼2
臨床薬理学		2前	2									兼1	
臨床推論		4後	1			3							
感染と防御		1後	2									兼1	
代謝と栄養		1前	2									兼1	
臨床検査学		2前	1									兼1	
小計(10科目)	-	18	0	0	4	0	0	0	0	0	兼21		
社会 保健 支援と 制度	保健医療福祉行政論Ⅰ(基礎)	2前	2									兼1	
	保健医療福祉行政論Ⅱ(発展)	4後	2			2		1	1				
	公衆衛生学	1後	2			1							
	在宅医療の実際	2後	1			1		1					
	救急医療の実際	2後	1			1		1					
小計(5科目)	-	4	4	0	4	1	2	1	0		兼1		
疫学と 健康 現象	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	2後	2									兼1	
	疫学・保健統計Ⅱ(発展)	4後	2			2		1	1				
	小計(2科目)	-	2	2	0	2	0	1	1	0		兼1	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
科学的 基盤的思考	クリティカルシンキング	1前	2			1						兼1	
	医療経営学	1前・2前		2									
	情報処理Ⅰ(基礎)	1前	1				1						
	情報処理Ⅱ(発展)	1後	1				1						
	小計(4科目)	-	3	3	0	1	1	0	0	0		兼1	
	環境と 社会	総合講義	1前	1			3						
		川崎市の文化と科学	1前	1			2						
		サービスマーケティングⅠ(基本)	1後	2			2		2	0			兼1
		サービスマーケティングⅡ(実践)	2後	2			2		2	1			
		教育学	1前・2前	2			2						兼1
比較文化論		1後	2			2						兼1	
日本国憲法と法		1前	2			2						兼1	
小計(7科目)	-	4	8	0	4	0	1	0	0		兼4		
人間の 理解の 基礎	生涯発達論	1前	2									兼1	
	臨床心理学	1後	2									兼1	
	生活と人間工学	1前	2									兼1	
	健康科学Ⅰ(理論)	1前	1									兼1	
	健康科学Ⅱ(実践)	1後・2後	1									兼2	
	音楽	1後	2									兼1	
	キャリア論	3前	2									兼1	
小計(7科目)	-	9	3	0	0	0	0	0	0		兼7		
語学	英語Ⅰ(講読基礎)	1前	1									兼1	
	英語Ⅱ(会話基礎)	1後	1									兼1	
	英語Ⅲ(講読応用)	2前		1								兼1	
	英語Ⅳ(会話応用)	2後		1								兼1	
	中国語Ⅰ(基礎)	1前		1								兼1	
	中国語Ⅱ(発展)	1後		1								兼1	
	医療英語	3前		1								兼1	
	小計(7科目)	-	2	5	0	0	0	0	0	0		兼4	
人体の 構造と 機能	人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理:筋骨格,消化器,泌尿器,生殖器)	1前	2							1		兼2	
	人体構造機能学Ⅱ(解剖と生理:循環器,呼吸器,神経,感覚器)	1前	2							1		兼1	
	人体構造機能学Ⅲ(解剖と生理:生命活動と代謝)	1後	2							1		兼1	
	人体構造機能学Ⅳ(演習)	1後	1							1		兼1	
	小計(4科目)	-	7	0	0	0	0	0	1	0		兼3	
	疾病の 成り立ち と回復の 促進	病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)	1後	2							2		兼4
		病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)	2前	2							2		兼6
		病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)	2前	2							2		兼4
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)	2後	2							2		兼6
		病態生理学Ⅴ(生殖器系・小児科)	2後	2							2		兼2
臨床薬理学		2前	2									兼1	
臨床推論		4後	1			3							
感染と防御		1後	2									兼1	
代謝と栄養		1前	2									兼1	
臨床検査学		2前	1									兼1	
小計(10科目)	-	18	0	0	5	0	0	0	0	0	兼26		
社会 保健 支援と 制度	保健医療福祉行政論Ⅰ(基礎)	2前	2									兼1	
	保健医療福祉行政論Ⅱ(発展)	4後	2			2		1	1				
	公衆衛生学	1後	2			1							
	在宅医療の実際	2後	1			2		0					
	救急医療の実際	2後	1			1		1					
小計(5科目)	-	4	4	0	5	1	1	1	0		兼1		
疫学と 健康 現象	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	2後	2									兼1	
	疫学・保健統計Ⅱ(発展)	4後	2			2		1	1				
	小計(2科目)	-	2	2	0	2	0	1	1	0		兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門	公衆衛生看護学概論	2後	2			2						
	公衆衛生看護学対象論Ⅰ(ライフステージ別)	2後	2			1		1				
	公衆衛生看護学対象論Ⅱ(学校・産業)	3前		2		2						
	公衆衛生看護学方法論	3前		2		1		1				
	コミュニティ・アセスメント論	3前		2		1		1	1			
	公衆衛生看護学活動論	4後		2		1		1	1			
	小計(6科目)	-	4	8	0	2	0	1	1	0		兼0
	基礎看護学実習Ⅰ(基礎)	1後	1			1	1	2	1	7		
	基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)	2前	2			1	1	3	1	10		
	在宅看護学実習	4前	2			1	1	2		3		
	地域包括ケア実習	4前	2			1	1	2		5		
	成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期)	3後	2			1	2	2	1	4		
	成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期)	3後	2			1	2	1	1	7		
	成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援)	3後	1			1	2	2	1	4		
	成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)	4前		2		1	2	1				
	老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護)	3後	1			2		1	1	2		
	老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア)	4前		1		2		1	1			
	小児看護学実習Ⅰ(病院)	3後	1			1		2	1			
	小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校)	3後	1			1		2	1			
	母性看護学実習Ⅰ(分娩期・病院)	3後	1			1		2		1		
母性看護学実習Ⅱ(妊娠期・子育て期)	3後	1			1		2					
精神看護学実習Ⅰ(病院)	3後	1			1	1	1					
精神看護学実習Ⅱ(デイケア)	3後	1			1	1	1					
看護マネジメント実習	4前	1			1	1		1				
発達と暮らしへの支援実習(幼児と高齢者の生活)	2前	1			1		4	2				
多職種連携実習	4前		1		2	2	3					
公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎)	3後		2		1		1	1	2			
公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント)	4前		2		1		1	1	2			
公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業)	4前		1		2		1	1				
公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)	4前		1		1		1	1				
小計(23科目)	-	21	10	0	10	5	12	4	14		兼0	
合計(119科目)	-	123	49	0	12	6	12	4	14		兼42	
卒業要件及び履修方法												
<p>人間理解の基礎では必修科目18単位および選択科目3単位以上、専門基礎では必修科目31単位および選択科目2単位以上、専門では必修科目74単位および選択科目4単位以上(『臨地実習』のうち「成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)」、「老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア)」および「多職種連携実習」から2科目を選択必修とする。)を履修し、合計132単位以上を修得していること。</p> <p>保健師国家試験受験資格を希望する者は、卒業要件(132単位)の他に、専門基礎から「疫学・保健統計Ⅱ」(2単位)、専門から「公衆衛生看護学」の選択科目(8単位)と『臨地実習』の選択科目のうち「公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅳ」(6単位)の計16単位を履修し、合計148単位以上を修得していること。</p> <p>養護教諭二種免許の申請を希望する者は、保健師国家試験の受験資格に必要な科目に加え、人間理解の基礎の選択科目「教育学」(2単位)、「日本国憲法と法」(2単位)の合計4単位を修得していること。(履修科目の登録の上限:52単位(年間))</p>												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門	公衆衛生看護学概論	2後	2			2						
	公衆衛生看護学対象論Ⅰ(ライフステージ別)	2後	2			2		1				
	公衆衛生看護学対象論Ⅱ(学校・産業)	3前		2		2						
	公衆衛生看護学方法論	3前		2		1		1				
	コミュニティ・アセスメント論	3前		2		1		1	1			
	公衆衛生看護学活動論	4後		2		1		1	1			
	小計(6科目)	-	4	8	0	2	0	1	1	0		兼0
	基礎看護学実習Ⅰ(基礎)	1後	1			1	1	3	0	7		
	基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)	2前	2			1	1	4	0	10		
	在宅看護学実習	4前	2			1	1	2		3		
	地域包括ケア実習	4前	2			1	1	2		5		
	成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期)	3後	2			1	2	2	1	4		
	成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期)	3後	2			1	2	1	1	7		
	成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援)	3後	1			1	2	2	1	4		
	成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)	4前		2		1	2	1				
	老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護)	3後	1			2		1	1	2		
	老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア)	4前		1		2		1	1			
	小児看護学実習Ⅰ(病院)	3後	1			1		2	1			
	小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校)	3後	1			1		2	1			
	母性看護学実習Ⅰ(分娩期・病院)	3後	1			1		2		1		
母性看護学実習Ⅱ(妊娠期・子育て期)	3後	1			1		2					
精神看護学実習Ⅰ(病院)	3後	1			1	1	1					
精神看護学実習Ⅱ(デイケア)	3後	1			1	1	1					
看護マネジメント実習	4前	1			1	1	1	0				
発達と暮らしへの支援実習(幼児と高齢者の生活)	2前	1			1		4	2				
多職種連携実習	4前		1		2	2	3					
公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎)	3後		2		1		1	1	2			
公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント)	4前		2		1		1	1	2			
公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業)	4前		1		2		1	1				
公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)	4前		1		1		1	1				
小計(23科目)	-	21	10	0	10	5	12	3	14		兼0	
合計(119科目)	-	123	49	0	11	6	12	3	14		兼49	
卒業要件及び履修方法												
<p>人間理解の基礎では必修科目18単位および選択科目3単位以上、専門基礎では必修科目31単位および選択科目2単位以上、専門では必修科目74単位および選択科目4単位以上(『臨地実習』のうち「成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)」、「老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア)」および「多職種連携実習」から2科目を選択必修とする。)を履修し、合計132単位以上を修得していること。</p> <p>保健師国家試験受験資格を希望する者は、卒業要件(132単位)の他に、専門基礎から「疫学・保健統計Ⅱ」(2単位)、専門から「公衆衛生看護学」の選択科目(8単位)と『臨地実習』の選択科目のうち「公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅳ」(6単位)の計16単位を履修し、合計148単位以上を修得していること。</p> <p>養護教諭二種免許の申請を希望する者は、保健師国家試験の受験資格に必要な科目に加え、人間理解の基礎の選択科目「教育学」(2単位)、「日本国憲法と法」(2単位)の合計4単位を修得していること。(履修科目の登録の上限:52単位(年間))</p>												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間理解の基礎	クリティカルシンキング	1前	2			1							
	医療経営学	1前・2前		2									兼1
	情報処理Ⅰ(基礎)	1前	1				1						
	情報処理Ⅱ(発展)	1後		1			1						
	小計(4科目)	-	3	3	0	1	1	0	0	0			兼1
	総合講義	1前	1			3							
	川崎市の文化と科学	1前	1			2							
	サービスラーニングⅠ(基本)	1後	2			1		1					兼1
	サービスラーニングⅡ(実践)	2後		2		2		2					
	教育学	1前・2前		2									兼1
	比較文化論	1後		2									兼1
	日本国憲法と法	1前		2									兼1
	小計(7科目)	-	4	8	0	4	0	2	0	0			兼4
	生涯発達論	1前		2									兼1
	臨床心理学	1後		2									兼1
	生活と人間工学	1前		2									兼1
	健康科学Ⅰ(理論)	1前		1									兼2
	健康科学Ⅱ(実践)	1後・2後			1								兼1
	音楽	1後			2								兼1
	キャリア論	3前		2									兼1
	小計(7科目)	-	9	3	0	0	0	0	0	0			兼7
	英語Ⅰ(講義基礎)	1前		1									兼1
	英語Ⅱ(会話基礎)	1後		1									兼1
	英語Ⅲ(講義応用)	2前			1								兼1
	英語Ⅳ(会話応用)	2後			1								兼1
	中国語Ⅰ(基礎)	1前			1								兼1
	中国語Ⅱ(発展)	1後			1								兼1
	医療英語	3前			1								兼1
小計(7科目)	-	2	5	0	0	0	0	0	0			兼3	
人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理-筋骨格,消化器,泌尿器,生殖器)	1前		2					1				兼1	
人体構造機能学Ⅱ(解剖と生理-循環器,呼吸器,神経,感覚器)	1前		2					1				兼1	
人体構造機能学Ⅲ(解剖と生理-生命活動と代謝)	1後		2					1				兼1	
人体構造機能学Ⅳ(演習)	1後		1					1				兼1	
小計(4科目)	-	7	0	0	0	0	1	0	0			兼2	

専門基礎	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)	1後	2			1											兼2	
		病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)	2前	2															兼4
		病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)	2前	2			1												兼2
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)	2後	2															兼6
		病態生理学Ⅴ(生殖系・小児科)	2後	2															兼2
		臨床薬理学	2前	2															兼1
		臨床推論	4後	1			3												兼1
		感染と防御	1後	2															兼1
		代謝と栄養	1前	2															兼1
		臨床検査学	2前	1															兼1
	小計(10科目)	-	18	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼20	
	社会保健支援と制度	保健医療福祉行政論Ⅰ(基礎)	2前	2															兼1
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展)	4後	2	2		2			1	1								兼1
		公衆衛生学	1後	2			1												兼1
		在宅医療の実際	2後	1			1			1									兼1
		救急医療の実際	2後	1			0	1											兼1
	小計(5科目)	-	4	4	0	3	1	2	1	0								兼1	
	疫学と健康統計	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	2後	2															兼1
		疫学・保健統計Ⅱ(発展)	4後	2			2			1	1								兼1
小計(2科目)		-	2	2	0	2	0	1	1	0								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置						兼任・兼任						
			必修	選択	自由	単位	准教授	講師	助教	助手	手								
専門	基礎看護学技術	看護学原論	1前	2			3	1											
		基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術)	1前	1			1	1	3	0									
		基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術)	1後	2			1	1	2	0									
		基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術)	1後	1			1	1	2	0									
		基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)	2前	2			1	1	2	0									
		基礎看護学技術Ⅴ(看護過程)	2前	1			1	1	2	0									
		看護コミュニケーション論Ⅰ(基本)	1前	1			1				1								
		看護コミュニケーション論Ⅱ(発展)	4前		1		1				3								
		看護倫理学Ⅰ(基本)	1後	1			1	1											兼1
		看護倫理学Ⅱ(発展)	4後	1			8												兼1
	小計(10科目)	-	12	1	0	10	2	6	0	0	0	0						兼1	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1後	2			1	1											
		地域・在宅看護学方法論	2前	2			1	1	2										
地域・在宅看護学演習		2後	1			1	1	2											
地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護)		3前	1			1	1	2											
小計(4科目)		-	6	0	0	1	1	2	0	0	0							兼0	
成人看護学	成人看護学概論	2前	1			1	2												
	成人看護学方法論Ⅰ(急性期)	2後	2			1	2												
	成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期)	2後	2			1	2	1											
	成人看護学演習	3前	1			1	2	1											
	小計(4科目)	-	6	0	0	1	2	1	0	0	0							兼0	
老年看護学	老年看護学概論	2前	1			2													
	老年看護学方法論	2後	2			2		1											
	老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援)	3前	1			2		1	1										
	老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア)	3前	1			2		1	1										
	小計(4科目)	-	5	0	0	2	0	1	1	0	0							兼0	
小児看護学	小児看護学概論	2前	1			1													
	小児看護学方法論	3前	2			1		2											
	小児看護学演習	3前	1			1		2	1										
	小計(3科目)	-	4	0	0	1	0	2	1	0	0							兼0	
母性看護学	母性看護学概論	2後	1			1													
	母性看護学方法論	3前	2			1		2											
	母性看護学演習	3前	1			1		2											
	小計(3科目)	-	4	0	0	1	0	2	0	0	0							兼0	
精神看護学	精神看護学概論	2後	1			1	1												
	精神看護学方法論	2後	2			1	1	1											
	精神看護学演習	3前	1			1	1	1											
	小計(3科目)	-	4	0	0	1	1	1	0	0	0							兼0	
看護の統合と実践	保健指導・健康教育論	2後	1			1		2											
	地域包括ケア実践Ⅰ(多職種協働)	2後	1			3	1												
	統合地域包括ケア演習	4後	1			2	3	5	0										
	国際看護論	4前		1		1		2											
	看護情報活用論	4前		1				2											
	災害看護学Ⅰ(基礎)	2後	1			2													
	災害看護学Ⅱ(発展)	4前		1		2													
	看護マネジメント論	3前	1			1	1												
	バリアティブケア	4前		1		2	1												
	家族看護学	2後		1		3													
	看護研究法概説	3前	1			1	1												
	看護研究Ⅰ(基礎)	4前	1			9	5	12											
	看護研究Ⅱ(発展)	4後	1			9	5	12											
小計(13科目)	-	8	5	0	11	5	12	0	0	0							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
専門	公衆衛生看護学概論	2後	2			2							
	公衆衛生看護学対象論Ⅰ(ライフステージ別)	2後	2			1		1					
	公衆衛生看護学対象論Ⅱ(学校・産業)	3前		2		2							
	公衆衛生看護学方法論	3前		2		1		1					
	コミュニティ・アセスメント論	3前		2		1		1	1				
	公衆衛生看護学活動論	4後		2		1		1	1				
	小計(6科目)	-	4	8	0	2	0	1	1	0		兼0	
	基礎看護学実習Ⅰ(基礎)	1後	1			1	1	3	0	7			
	基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)	2前	2			1	1	4	0	10			
	在宅看護学実習	4前	2			1	1	2		3			
	地域包括ケア実習	4前	2			1	1	2		5			
	成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期)	3後	2			1	2	2	1	4			
	成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期)	3後	2			1	2	1	1	7			
	成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援)	3後	1			1	2	2	1	4			
	成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)	4前		2		1	2	1					
	老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護)	3後	1			2		1	1	2			
	老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア)	4前		1		2		1	1				
	小児看護学実習Ⅰ(病院)	3後	1			1		2	1				
	小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校)	3後	1			1		2	1				
	母性看護学実習Ⅰ(分娩期・病院)	3後	1			1		2		1			
	母性看護学実習Ⅱ(妊産期・子育て期)	3後	1			1		2					
精神看護学実習Ⅰ(病院)	3後	1			1	1	1						
精神看護学実習Ⅱ(デイケア)	3後	1			1	1	1						
看護マネジメント実習	4前	1			1	1	1	0					
発達と暮らしへの支援実習(幼児と高齢者の生活)	2前	1			1		4	2					
多職種連携実習	4前		1		2	2	3						
公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎)	3後		2		1		1	1	2				
公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント)	4前		2		1		1	1	2				
公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業)	4前		1		2		1	1					
公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)	4前		1		1		1	1					
小計(23科目)	-	21	10	0	10	5	13	3	14		兼0		
合計(119科目)	-	123	49	0	11	6	13	3	14		兼41		

卒業要件及び履修方法

人間理解の基礎では必修科目18単位および選択科目3単位以上、専門基礎では必修科目31単位および選択科目2単位以上、専門では必修科目74単位および選択科目4単位以上(『臨地実習』のうち「成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)」、「老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア)」および「多職種連携実習」から2科目を選択必修とする。)を履修し、合計132単位以上を修得していること。
 保健師国家試験受験資格を希望する者は、卒業要件(132単位)の他に、専門基礎から「疫学・保健統計Ⅱ」(2単位)、専門から『公衆衛生看護学』の選択科目(8単位)と『臨地実習』の選択科目のうち「公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅳ」(6単位)の計16単位を履修し、合計148単位以上を修得していること。
 養護教諭二種免許の申請を希望する者は、保健師国家試験の受験資格に必要な科目に加え、人間理解の基礎の選択科目「教育学」(2単位)、「日本国憲法と法」(2単位)の合計4単位を修得していること。
 (履修科目の登録の上限:52単位(年間))

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・大城健一教授辞任により、担当科目である「救急医療の実際」「災害看護学Ⅰ（基礎）」「災害看護学Ⅱ（発展）」の教授数減。
- ・逢坂佳宗兼任講師辞任により、担当科目である「病態生理学Ⅱ（消化器・内分泌・免疫）」の兼任講師数減。
- ・青木恵美子が助教から講師へ昇任したことによる変更（令和3年12月教員審査済）。

【令和5年度】

- ・坂元昇教授が、「災害看護学Ⅱ（発展）」を担当することによる、教授数増。
- ・中島洋介教授が、「人体構造機能学Ⅳ（演習）」、「病態生理学Ⅰ（基礎・呼吸・循環器）」、「病態生理学Ⅲ（筋骨格・神経・精神）」、「病態生理学Ⅳ（感覚器・血液・泌尿器）」、「病態生理学Ⅴ（生殖系・小児科）」、「救急医療の実際」を担当することによる、教授数増。
- ・佐藤文教授が、「在宅医療の実際」を担当することによる、教授数増。
- ・五味麻美講師が、「国際看護論」を担当することによる、講師数増。
- ・田中悠美講師が、「基礎看護学技術Ⅰ（共通基本技術）」、「基礎看護学技術Ⅱ（生活支援技術）」、「基礎看護学技術Ⅲ（診療支援技術）」、「基礎看護学実習Ⅰ（基礎）」、「基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）」を担当することによる、講師数増。
- ・田中悠美講師が、「サービスマニエールⅡ（実践）」、「在宅医療の実際」、「看護コミュニケーションⅡ（発展）」、「地域・在宅看護学方法論」、「地域・在宅看護学実習」、「地域包括ケア実践Ⅱ（継続看護）」、「看護研究Ⅰ（基礎）」、「看護研究Ⅱ（発展）」、「在宅看護学実習」、「地域包括ケア実習」を担当しなくなることによる講師数減。
- ・窪島領子助教就任により、担当科目である「地域・在宅看護学方法論」、「地域・在宅看護学実習」、「地域包括ケア実践Ⅱ（継続看護）」、「看護研究Ⅰ（基礎）」、「在宅看護学実習」、「地域包括ケア実習」、「看護研究Ⅱ（発展）」の助教数増。
- ・久貝波留菜助教就任により、担当科目である「成人看護学実習Ⅰ（慢性期）」、「成人・老年看護学実習Ⅱ（急性期）」、「成人・老年看護学実習Ⅲ（セルフケア支援）」、「成人・老年看護学実習Ⅳ（緩和ケア）」の助教数増。
- ・笠原順子講師辞任により、「サービスマニエールⅠ（基本）」、「サービスマニエールⅡ（実践）」、「地域・在宅看護学方法論」、「地域・在宅看護学実習」、「地域包括ケア実践Ⅱ（継続看護）」、「国際看護論」、「看護研究Ⅰ（基礎）」、「看護研究Ⅱ（発展）」、「在宅看護学実習」、「地域包括ケア実習」の講師数減。
- 【以下兼任講師分】
- ・西端泉兼任講師辞任により、担当科目「健康科学Ⅰ（理論）」の兼任講師数減
- ・藤井洋武兼任講師辞任により、担当科目「健康科学Ⅰ（理論）」の兼任講師数減
- ・東久保愛美兼任講師着任により、担当科目「健康科学Ⅰ（理論）」および「健康科学Ⅱ（実践）」の兼任講師数増
- ・今尾香雪兼任講師が担当する科目のうち、「英語Ⅲ（講読応用）」および「英語Ⅳ（会話応用）」辞任により、当該科目の兼任講師数減
- ・鈴木規子兼任講師着任により、担当科目「英語Ⅲ（講読応用）」および「英語Ⅳ（会話応用）」の兼任講師数増
- ・大橋充代兼任講師着任により、担当科目「人体構造機能学Ⅰ」の兼任講師数増
- ・佐山宏一兼任講師辞任により、担当科目「病態生理学Ⅰ（基礎・呼吸・循環器）」の兼任講師数減
- ・中野泰兼任講師、亀山直史兼任講師、西尾和三兼任講師がそれぞれ着任により、担当科目「病態生理学Ⅰ（基礎・呼吸・循環器）」の兼任講師数増
- ・出野智史兼任講師、田口博章兼任講師がそれぞれ着任により、担当科目「病態生理学Ⅱ（消化器・内分泌・免疫）」の兼任講師数増
- ・西村空也兼任講師、三浦孝政兼任講師がそれぞれ着任により、担当科目「病態生理学Ⅲ（筋骨格・神経・精神）」の兼任講師数増
- ・園部秀樹兼任講師、原智兼任講師がそれぞれ辞任により、担当科目「病態生理学Ⅳ（感覚器・血液・泌尿器）」の兼任講師数減
- ・滝本千恵兼任講師、三田村浩人兼任講師がそれぞれ着任により、担当科目「病態生理学Ⅳ（感覚器・血液・泌尿器）」の兼任講師数増
- ・川鍋健兼任講師辞任により、担当科目「日本国憲法と法」の兼任講師数減
- ・谷遼大兼任講師着任により、担当科目「日本国憲法と法」の兼任講師数増

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
85 科目	34 科目	0 科目	119 科目	科目 []	科目 []	科目 []	科目 []	設置時から変更なし

- (注)
- ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{119} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	校舎敷地	7,037.42㎡	㎡	㎡	7,037.42㎡						
	運動場用地	5,484.88㎡	㎡	㎡	5,484.88㎡						
	小 計	12,522.30㎡	㎡	㎡	12,522.30㎡						
	そ の 他	0㎡	㎡	㎡	0㎡						
	合 計	12,522.30㎡	㎡	㎡	12,522.30㎡						
(2) 校舎	専 用	8,426.17㎡	— ㎡	— ㎡	8,426.17㎡						
		(8,426.17㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(8,426.17㎡)						
(3) 教室等	講義室	7室	演習室	6室	実験実習室	7室	情報処理学習施設	1室	語学学習施設	0室	
						(補助職員 人)		(補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数							
	看護学部 看護学科			21 室							
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	(注) 電子ジャーナルは、大学全体で43パッケージで、443,704タイトルの雑誌を網羅している。			
	看護学部	48,179 [1,989] 47,000 [1,951] (48,179 [1,989]) (40,000 [1,660])	253 [59] (253 [59])	3 [0] 1 [0] (3 [0]) (1 [0])	846 772 (846) (772)	888 (888)	7 (7)				
	計	48,179 [1,989] 47,000 [1,951] (48,179 [1,989]) (40,000 [1,660])	253 [59] (253 [59])	3 [0] (注)1 [0] (3 [0]) (1 [0])	846 772 (846) (772)	888 (888)	7 (7)				
(6) 図書館	面 積	432.96㎡		閲覧座席数	80席		収納可能冊数	50,000冊			
	面 積	673.51㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要							
(7) 体育館	面 積		該 当 な し								
	673.51㎡										
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員1人当たり研究費等	452千円	453千円	図書購入費	12,724千円	12,724千円	12,724千円			
	共同研究費等	1,900千円	1,900千円	設備購入費	148,265千円	20,000千円	20,000千円				
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		(市内)677千円 (市外)818千円	536千円	536千円	536千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要											

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	川崎市立看護大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
看護学部	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
看護学科	4	100	-	400	-	1.00	1.00	1.00	1.00	-	令和4	-						
	4	100	-	400	学士(看護学)	1.00	-	-	-	-	令和4	川崎市幸区小倉4-30-1						
大学全体	4	180	-	400	-	-	-	-	-	-	-	-						

大学の名称	川崎市立看護短期大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
看護学科	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
看護学科	3	80	-	240	短期大学士(看護学)	-	-	-	-	-	平成6	川崎市幸区小倉4-30-1						
短期大学全体	3	80	-	440	-	-	-	-	-	-	-	-						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	坂元 昇 <令和4年4月> 医学博士
		総合講義 川崎市の文化と科学 病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器) 病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神) 災害看護学Ⅰ(基礎)
専	教授	荒木田 美香子 <令和4年4月> 看護学博士
		総合講義 川崎市の文化と科学 サービスマーケティング論Ⅱ(実践) 保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 公衆衛生学 疫学・保健統計Ⅱ(発展) 看護学原論 保健指導・健康教育論 災害看護学Ⅱ(発展) 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学対象論Ⅱ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業)
専	教授	掛田 崇寛 <令和4年4月> 保健学博士
		クリティカルシンキング 基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 看護倫理学Ⅱ(発展) パリアティブケア 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)
専	教授	難波 貴代 <令和4年4月> 看護学博士
		臨床推論 在宅医療の実際 看護学原論 看護倫理学Ⅱ(発展) 地域・在宅看護学概論 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 国際看護論 災害看護学Ⅱ(発展) 家族看護学 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	坂元 昇 <令和4年4月> 医学博士
		総合講義 川崎市の文化と科学 病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器) 病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神) 災害看護学Ⅰ(基礎)
専	教授	荒木田 美香子 <令和4年4月> 看護学博士
		総合講義 川崎市の文化と科学 サービスマーケティング論Ⅱ(実践) 保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 公衆衛生学 疫学・保健統計Ⅱ(発展) 看護学原論 保健指導・健康教育論 災害看護学Ⅱ(発展) 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学対象論Ⅱ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業)
専	教授	掛田 崇寛 <令和4年4月> 保健学博士
		クリティカルシンキング 基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 看護倫理学Ⅱ(発展) パリアティブケア 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)
専	教授	難波 貴代 <令和4年4月> 看護学博士
		臨床推論 在宅医療の実際 看護学原論 看護倫理学Ⅱ(発展) 地域・在宅看護学概論 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 国際看護論 災害看護学Ⅱ(発展) 家族看護学 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	坂元 昇 <令和4年4月> 医学博士
		総合講義 川崎市の文化と科学 病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器) 病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神) 災害看護学Ⅰ(基礎)
専	教授	荒木田 美香子 <令和4年4月> 看護学博士
		総合講義 川崎市の文化と科学 サービスマーケティング論Ⅰ(基本) サービスマーケティング論Ⅱ(実践) 保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 公衆衛生学 疫学・保健統計Ⅱ(発展) 看護学原論 保健指導・健康教育論 災害看護学Ⅱ(発展) 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学対象論Ⅱ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業)
専	教授	掛田 崇寛 <令和4年4月> 保健学博士
		クリティカルシンキング 基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 看護倫理学Ⅱ(発展) パリアティブケア 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)
専	教授	難波 貴代 <令和4年4月> 看護学博士
		臨床推論 在宅医療の実際 看護学原論 看護倫理学Ⅱ(発展) 地域・在宅看護学概論 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 国際看護論 災害看護学Ⅱ(発展) 家族看護学 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	洲崎 好香 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 疫学・保健統計Ⅱ(発展) 看護倫理学Ⅱ(発展) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学対象論Ⅰ(ライフステージ別) 公衆衛生看護学対象論Ⅱ(学校・産業) 公衆衛生看護学方法論 コミュニティ・アセスメント論 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)
専	教授	糸井 裕子 ＜令和4年4月＞ 医学博士
		臨床推論 看護学原論 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 地域包括ケア実践Ⅰ(多職種協働) 災害看護学Ⅰ(基礎) パリアティブケア 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)
専	教授	佐藤 文 ＜令和4年4月＞ 保健学博士
		看護倫理学Ⅱ(発展) 老年看護学概論 老年看護学方法論 老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援) 老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア) 統合地域包括ケア演習 看護研究法概説 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護) 老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	洲崎 好香 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 疫学・保健統計Ⅱ(発展) 看護倫理学Ⅱ(発展) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学対象論Ⅰ(ライフステージ別) 公衆衛生看護学対象論Ⅱ(学校・産業) 公衆衛生看護学方法論 コミュニティ・アセスメント論 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)
専	教授	糸井 裕子 ＜令和4年4月＞ 医学博士
		臨床推論 看護学原論 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 地域包括ケア実践Ⅰ(多職種協働) 災害看護学Ⅰ(基礎) パリアティブケア 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)
専	教授	佐藤 文 ＜令和4年4月＞ 保健学博士
		看護倫理学Ⅱ(発展) 老年看護学概論 老年看護学方法論 老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援) 老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア) 統合地域包括ケア演習 看護研究法概説 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護) 老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	洲崎 好香 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 疫学・保健統計Ⅱ(発展) 看護倫理学Ⅱ(発展) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学対象論Ⅰ(ライフステージ別) 公衆衛生看護学対象論Ⅱ(学校・産業) 公衆衛生看護学方法論 コミュニティ・アセスメント論 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)
専	教授	糸井 裕子 ＜令和4年4月＞ 医学博士
		臨床推論 看護学原論 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 地域包括ケア実践Ⅰ(多職種協働) 災害看護学Ⅰ(基礎) パリアティブケア 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)
専	教授	佐藤 文 ＜令和4年4月＞ 保健学博士
		看護倫理学Ⅱ(発展) 老年看護学概論 老年看護学方法論 老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援) 老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア) 統合地域包括ケア演習 看護研究法概説 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護) 老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア) 在宅医療の実践

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大城 健一 ＜令和4年4月＞ 医学博士
		救急医療の実際 災害看護学Ⅰ(基礎) 災害看護学Ⅱ(発展)
専	准教授	豊増 佳子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		看護学原論 基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 看護情報活用論 看護マネジメント論 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 看護マネジメント実習
専	准教授	木全 真理 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		地域・在宅看護学概論 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 地域包括ケア実践Ⅰ(多職種協働) 統合地域包括ケア演習 パリアティブケア 看護研究法概説 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 多職種連携実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	豊増 佳子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		看護学原論 基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 看護情報活用論 看護マネジメント論 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 看護マネジメント実習
専	准教授	木全 真理 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		地域・在宅看護学概論 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 地域包括ケア実践Ⅰ(多職種協働) 統合地域包括ケア演習 パリアティブケア 看護研究法概説 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 多職種連携実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	中島 洋介 ＜令和5年4月＞ 医学博士
		人体構造機能学Ⅳ(演習) 病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器) 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫) 病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神) 病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器) 病態生理学Ⅴ(生殖系、小児科) 救急医療の実際
専	准教授	豊増 佳子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		看護学原論 基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 看護情報活用論 看護マネジメント論 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 看護マネジメント実習
専	准教授	木全 真理 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		地域・在宅看護学概論 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 地域包括ケア実践Ⅰ(多職種協働) 統合地域包括ケア演習 パリアティブケア 看護研究法概説 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 多職種連携実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	松田 有子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		救急医療の実際 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)
専	准教授	牛尾 陽子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)
専	准教授	嵐 弘美 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		看護倫理学Ⅰ(基本) 精神看護学概論 精神看護学方法論 精神看護学演習 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 精神看護学実習Ⅰ(病院) 精神看護学実習Ⅱ(デイケア) 多職種連携実習
専	准教授	高柳 良太 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		情報処理Ⅰ(基礎) 情報処理Ⅱ(発展) 看護情報活用論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	松田 有子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		救急医療の実際 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)
専	准教授	牛尾 陽子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)
専	准教授	嵐 弘美 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		看護倫理学Ⅰ(基本) 精神看護学概論 精神看護学方法論 精神看護学演習 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 精神看護学実習Ⅰ(病院) 精神看護学実習Ⅱ(デイケア) 多職種連携実習
専	准教授	高柳 良太 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		情報処理Ⅰ(基礎) 情報処理Ⅱ(発展) 看護情報活用論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	松田 有子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		救急医療の実際 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)
専	准教授	牛尾 陽子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)
専	准教授	嵐 弘美 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		看護倫理学Ⅰ(基本) 精神看護学概論 精神看護学方法論 精神看護学演習 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 精神看護学実習Ⅰ(病院) 精神看護学実習Ⅱ(デイケア) 多職種連携実習
専	准教授	高柳 良太 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		情報処理Ⅰ(基礎) 情報処理Ⅱ(発展) 看護情報活用論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	岩屋 裕美 ＜令和4年4月＞ 学術修士
		基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 看護コミュニケーション論Ⅰ(基本) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)
専	講師	笠原(中山)順子 ＜令和4年4月＞ 社会健康医学修士
		サービスマニエール論Ⅰ(基本) サービスマニエール論Ⅱ(実践) 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 国際看護論 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習
専	講師	田中 悠美 ＜令和4年4月＞ 看護学修士
		サービスマニエール論Ⅱ(実践) 在宅医療の実際 看護コミュニケーション論Ⅱ(発展) 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習
専	講師	遠藤 雅幸 ＜令和5年4月＞ 教育学修士
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 疫学・保健統計Ⅱ(発展) 保健指導・健康教育論 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 公衆衛生看護学対象論Ⅰ(ライフステージ別) 公衆衛生看護学方法論 コミュニティ・アセスメント論 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	岩屋 裕美 ＜令和4年4月＞ 学術修士
		基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 看護コミュニケーション論Ⅰ(基本) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)
専	講師	笠原(中山)順子 ＜令和4年4月＞ 社会健康医学修士
		サービスマニエール論Ⅰ(基本) サービスマニエール論Ⅱ(実践) 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 国際看護論 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習
専	講師	田中 悠美 ＜令和4年4月＞ 看護学修士
		サービスマニエール論Ⅱ(実践) 在宅医療の実際 看護コミュニケーション論Ⅱ(発展) 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習
専	講師	遠藤 雅幸 ＜令和5年4月＞ 教育学修士
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 疫学・保健統計Ⅱ(発展) 保健指導・健康教育論 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 公衆衛生看護学対象論Ⅰ(ライフステージ別) 公衆衛生看護学方法論 コミュニティ・アセスメント論 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	岩屋 裕美 ＜令和4年4月＞ 学術修士
		基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 看護コミュニケーション論Ⅰ(基本) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)
専	講師	田中 悠美 ＜令和4年4月＞ 看護学修士
		基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) サービスマニエール論Ⅱ(実践) 看護コミュニケーション論Ⅱ(発展) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展)
専	講師	遠藤 雅幸 ＜令和5年4月＞ 看護学修士
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 疫学・保健統計Ⅱ(発展) 保健指導・健康教育論 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 公衆衛生看護学対象論Ⅰ(ライフステージ別) 公衆衛生看護学方法論 コミュニティ・アセスメント論 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	平井 孝次郎 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア) 多職種連携実習
専	講師	岩瀬 和恵 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		老年看護学方法論 老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援) 老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護) 老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア) 発達と暮らしへの支援実習
専	講師	木村 紀子 ＜令和4年4月＞ 子ども人間学修士
		小児看護学方法論 小児看護学演習 統合地域包括ケア演習 小児看護学実習Ⅰ(病院) 小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校) 発達と暮らしへの支援実習 多職種連携実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	平井 孝次郎 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア) 多職種連携実習
専	講師	岩瀬 和恵 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		老年看護学方法論 老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援) 老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護) 老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア) 発達と暮らしへの支援実習
専	講師	木村 紀子 ＜令和4年4月＞ 子ども人間学修士
		小児看護学方法論 小児看護学演習 統合地域包括ケア演習 小児看護学実習Ⅰ(病院) 小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校) 発達と暮らしへの支援実習 多職種連携実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	平井 孝次郎 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期) 成人看護学演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア) 多職種連携実習
専	講師	岩瀬 和恵 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		老年看護学方法論 老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援) 老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護) 老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア) 発達と暮らしへの支援実習
専	講師	木村 紀子 ＜令和4年4月＞ 子ども人間学修士
		小児看護学方法論 小児看護学演習 統合地域包括ケア演習 小児看護学実習Ⅰ(病院) 小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校) 発達と暮らしへの支援実習 多職種連携実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	笠井 由美子 ＜令和4年4月＞ 子ども人間学修士
		看護コミュニケーション論Ⅱ(発展) 小児看護学方法論 小児看護学演習 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 小児看護学実習Ⅰ(病院) 小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校) 発達と暮らしへの支援実習
専	講師	五味 麻美 ＜令和4年4月＞ 看護学修士
		看護コミュニケーション論Ⅱ(発展) 母性看護学方法論 母性看護学演習 国際看護論 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 母性看護学実習Ⅰ(分娩期・病院) 母性看護学実習Ⅱ(妊娠期・子育て期) 多職種連携実習
専	講師	永田 智子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		母性看護学方法論 母性看護学演習 保健指導・健康教育論 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 母性看護学実習Ⅰ(分娩期・病院) 母性看護学実習Ⅱ(妊娠期・子育て期)
専	講師	加藤 博之 ＜令和4年4月＞ 学術修士
		精神看護学方法論 精神看護学演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 精神看護学実習Ⅰ(病院) 精神看護学実習Ⅱ(デイケア) 発達と暮らしへの支援実習
専	講師	松田 真由美 ＜令和4年4月＞ スポーツ科学博士
		人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理: 筋骨格, 消化器, 泌尿器, 生殖器) 人体構造機能学Ⅱ(解剖と生理: 循環器, 呼吸器, 神経, 感覚器) 人体構造機能学Ⅲ(解剖と生理: 生命活動と代謝) 人体構造機能学Ⅳ(演習) 基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	笠井 由美子 ＜令和4年4月＞ 子ども人間学修士
		看護コミュニケーション論Ⅱ(発展) 小児看護学方法論 小児看護学演習 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 小児看護学実習Ⅰ(病院) 小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校) 発達と暮らしへの支援実習
専	講師	五味 麻美 ＜令和4年4月＞ 看護学修士
		看護コミュニケーション論Ⅱ(発展) 母性看護学方法論 母性看護学演習 国際看護論 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 母性看護学実習Ⅰ(分娩期・病院) 母性看護学実習Ⅱ(妊娠期・子育て期) 多職種連携実習
専	講師	永田 智子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		母性看護学方法論 母性看護学演習 保健指導・健康教育論 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 母性看護学実習Ⅰ(分娩期・病院) 母性看護学実習Ⅱ(妊娠期・子育て期)
専	講師	加藤 博之 ＜令和4年4月＞ 学術修士
		精神看護学方法論 精神看護学演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 精神看護学実習Ⅰ(病院) 精神看護学実習Ⅱ(デイケア) 発達と暮らしへの支援実習
専	講師	松田 真由美 ＜令和4年4月＞ スポーツ科学博士
		人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理: 筋骨格, 消化器, 泌尿器, 生殖器) 人体構造機能学Ⅱ(解剖と生理: 循環器, 呼吸器, 神経, 感覚器) 人体構造機能学Ⅲ(解剖と生理: 生命活動と代謝) 人体構造機能学Ⅳ(演習) 基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	笠井 由美子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		看護コミュニケーション論Ⅱ(発展) 小児看護学方法論 小児看護学演習 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 小児看護学実習Ⅰ(病院) 小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校) 発達と暮らしへの支援実習
専	講師	五味 麻美 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		看護コミュニケーション論Ⅱ(発展) 母性看護学方法論 母性看護学演習 国際看護論 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 母性看護学実習Ⅰ(分娩期・病院) 母性看護学実習Ⅱ(妊娠期・子育て期) 多職種連携実習
専	講師	永田 智子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		母性看護学方法論 母性看護学演習 保健指導・健康教育論 統合地域包括ケア演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 母性看護学実習Ⅰ(分娩期・病院) 母性看護学実習Ⅱ(妊娠期・子育て期)
専	講師	加藤 博之 ＜令和4年4月＞ 保健学博士
		精神看護学方法論 精神看護学演習 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 精神看護学実習Ⅰ(病院) 精神看護学実習Ⅱ(デイケア) 発達と暮らしへの支援実習
専	講師	松田 真由美 ＜令和4年4月＞ スポーツ科学博士
		人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理: 筋骨格, 消化器, 泌尿器, 生殖器) 人体構造機能学Ⅱ(解剖と生理: 循環器, 呼吸器, 神経, 感覚器) 人体構造機能学Ⅲ(解剖と生理: 生命活動と代謝) 人体構造機能学Ⅳ(演習) 基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 看護研究Ⅰ(基礎) 看護研究Ⅱ(発展) 基礎看護学実習Ⅰ(基礎)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	青木 恵美子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 統合地域包括ケア演習 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 看護マネジメント実習
専	助教	原田 若奈 ＜令和4年4月＞ 看護学修士
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 疫学・保健統計Ⅱ(発展) コミュニティ・アセスメント論 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)
専	助教	杉原 真裕子 ＜令和4年4月＞ 看護学修士
		老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援) 老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護) 老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア) 発達と暮らしへの支援実習
専	助教	村田 翔 ＜令和4年4月＞ 保健学修士
		小児看護学演習 小児看護学実習Ⅰ(病院) 小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校) 発達と暮らしへの支援実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	青木 恵美子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 統合地域包括ケア演習 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 看護マネジメント実習
専	助教	原田 若奈 ＜令和4年4月＞ 看護学修士
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 疫学・保健統計Ⅱ(発展) コミュニティ・アセスメント論 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)
専	助教	杉原 真裕子 ＜令和4年4月＞ 看護学修士
		老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援) 老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護) 老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア) 発達と暮らしへの支援実習
専	助教	村田 翔 ＜令和4年4月＞ 保健学修士
		小児看護学演習 小児看護学実習Ⅰ(病院) 小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校) 発達と暮らしへの支援実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	青木 恵美子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術) 基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術) 基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術) 基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント) 基礎看護学技術Ⅴ(看護過程) 統合地域包括ケア演習 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程) 看護マネジメント実習
専	助教	原田 若奈 ＜令和4年4月＞ 看護学博士
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展) 疫学・保健統計Ⅱ(発展) コミュニティ・アセスメント論 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学実習Ⅰ(基礎) 公衆衛生看護学実習Ⅱ(発展・マネジメント) 公衆衛生看護学実習Ⅲ(学校・産業) 公衆衛生看護学実習Ⅳ(社会的養護)
専	助教	杉原 真裕子 ＜令和4年4月＞ 看護学修士
		老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援) 老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア) 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 老年看護学実習Ⅰ(リハビリテーション看護) 老年看護学実習Ⅱ(認知症ケア) 発達と暮らしへの支援実習
専	助教	村田 翔 ＜令和4年4月＞ 保健学修士
		小児看護学演習 小児看護学実習Ⅰ(病院) 小児看護学実習Ⅱ(療育・特別支援学校) 発達と暮らしへの支援実習
専	助教	久貝 波留菜 ＜令和5年4月＞ 保健学博士
		成人看護学演習 成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期) 成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期) 成人・老年看護学実習Ⅲ(セルフケア支援) 成人・老年看護学実習Ⅳ(緩和ケア)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	羽田 明浩 ＜令和4年4月＞ 経営学博士 医療経営学
兼任	講師	高橋 恵子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士 サービスラーニング論Ⅰ(基本)
兼任	講師	鶴田 利郎 ＜令和4年4月＞ 人間科学博士 教育学
兼任	講師	川鍋 健 ＜令和4年4月＞ 法学博士 日本国憲法と法
兼任	講師	樹田(小田原)智子 ＜令和4年4月＞ 家政学修士 生涯発達論
兼任	講師	安齊 順子 ＜令和4年4月＞ 教育学修士 臨床心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	羽田 明浩 ＜令和4年4月＞ 経営学博士 医療経営学
兼任	講師	高橋 恵子 ＜令和4年4月＞ 看護学博士 サービスラーニング論Ⅰ(基本)
兼任	講師	鶴田 利郎 ＜令和4年4月＞ 人間科学博士 教育学
兼任	講師	川鍋 健 ＜令和4年4月＞ 法学博士 日本国憲法と法
兼任	講師	樹田(小田原)智子 ＜令和4年4月＞ 家政学修士 生涯発達論
兼任	講師	安齊 順子 ＜令和4年4月＞ 教育学修士 臨床心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
		窪島 領子 ＜令和5年4月＞ 教育学修士 地域・在宅看護学方法論 地域・在宅看護学演習 地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護) 看護研究Ⅰ(基礎) 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 看護研究Ⅱ(発展)
兼任	講師	羽田 明浩 (60) ＜令和4年4月＞ 経営学博士 医療経営学
兼任	講師	高橋 恵子 (54) ＜令和4年4月＞ 看護学博士 サービスラーニング論Ⅰ(基本)
兼任	講師	鶴田 利郎 (38) ＜令和4年4月＞ 人間科学博士 教育学
兼任	講師	谷 遼大 (30) ＜令和5年4月＞ 法学博士 日本国憲法と法
兼任	講師	樹田(小田原)智子 (52) ＜令和4年4月＞ 家政学修士 生涯発達論
兼任	講師	安齊 順子 (54) ＜令和4年4月＞ 教育学修士 臨床心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	村田 裕子 ＜令和4年4月＞ 農学博士
		生活と人間工学
兼任	講師	西端 泉 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		健康科学Ⅰ(理論)
兼任	講師	藤井 洋武 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		健康科学Ⅰ(理論) 健康科学Ⅱ(実践)
兼任	講師	西村 祐 ＜令和4年4月＞ 高等学校卒
		音楽
兼任	講師	保田 江美 ＜令和4年4月＞ 学際情報学博士
		キャリア論
兼任	講師	今尾 香雪 ＜令和4年4月＞ 英語教育学修士
		英語Ⅰ(講読基礎) 英語Ⅱ(会話基礎) 英語Ⅲ(講読応用) 英語Ⅳ(会話応用)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	村田 裕子 ＜令和4年4月＞ 農学博士
		生活と人間工学
兼任	講師	西端 泉 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		健康科学Ⅰ(理論)
兼任	講師	藤井 洋武 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		健康科学Ⅰ(理論) 健康科学Ⅱ(実践)
兼任	講師	西村 祐 ＜令和4年4月＞ 高等学校卒
		音楽
兼任	講師	保田 江美 ＜令和4年4月＞ 学際情報学博士
		キャリア論
兼任	講師	今尾 香雪 ＜令和4年4月＞ 英語教育学修士
		英語Ⅰ(講読基礎) 英語Ⅱ(会話基礎) 英語Ⅲ(講読応用) 英語Ⅳ(会話応用)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	村田 裕子 (57) ＜令和4年4月＞ 農学博士
		生活と人間工学
兼任	講師	東久保 愛美 (42) ＜令和5年4月＞ 体育学士
		健康科学Ⅰ(理論) 健康科学Ⅱ(実践)
兼任	講師	鈴木 規子 (58) ＜令和5年4月＞ 保健学修士
		英語Ⅲ(講読応用) 英語Ⅳ(会話応用)
兼任	講師	西村 祐 (58) ＜令和4年4月＞ 高等学校卒
		音楽
兼任	講師	保田 江美 (47) ＜令和4年4月＞ 学際情報学博士
		キャリア論
兼任	講師	今尾 香雪 (56) ＜令和4年4月＞ 英語教育学修士
		英語Ⅰ(講読基礎) 英語Ⅱ(会話基礎)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	木村 奈津子 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		中国語Ⅰ(基礎) 中国語Ⅱ(発展)
兼任	講師	杉山(小野)明枝 ＜令和4年4月＞ 文学修士
		医療英語
兼任	講師	水嶋 崇一郎 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理:筋骨格, 消化器, 泌尿器, 生殖器) 人体構造機能学Ⅳ(演習)
兼任	講師	長谷 都 ＜令和4年4月＞ 医学博士
		人体構造機能学Ⅱ(解剖と生理:循環器, 呼吸器, 神経, 感覚器) 人体構造機能学Ⅲ(解剖と生理:生命活動と代謝)
兼任	講師	佐山 宏一 ＜令和4年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)
兼任	講師	西澤 健也 ＜令和4年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)
兼任	講師	逢坂 佳宗 ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	木村 奈津子 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		中国語Ⅰ(基礎) 中国語Ⅱ(発展)
兼任	講師	杉山(小野)明枝 ＜令和4年4月＞ 文学修士
		医療英語
兼任	講師	水嶋 崇一郎 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理:筋骨格, 消化器, 泌尿器, 生殖器) 人体構造機能学Ⅳ(演習)
兼任	講師	長谷 都 ＜令和4年4月＞ 医学博士
		人体構造機能学Ⅱ(解剖と生理:循環器, 呼吸器, 神経, 感覚器) 人体構造機能学Ⅲ(解剖と生理:生命活動と代謝)
兼任	講師	佐山 宏一 (62) ＜令和4年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)
兼任	講師	西澤 健也 (56) ＜令和4年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	木村 奈津子 (67) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		中国語Ⅰ(基礎) 中国語Ⅱ(発展)
兼任	講師	杉山(小野)明枝 (54) ＜令和4年4月＞ 文学修士
		医療英語
兼任	講師	水嶋 崇一郎 (48) ＜令和4年4月＞ 理学博士
		人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理:筋骨格, 消化器, 泌尿器, 生殖器) 人体構造機能学Ⅳ(演習)
兼任	講師	長谷 都 (51) ＜令和4年4月＞ 医学博士
		人体構造機能学Ⅱ(解剖と生理:循環器, 呼吸器, 神経, 感覚器) 人体構造機能学Ⅲ(解剖と生理:生命活動と代謝)
兼任	講師	中野 泰 (48) ＜令和5年10月＞ 医学士
		病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)
兼任	講師	西澤 健也 (57) ＜令和4年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	栗林 徹 <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	玉井 博修 <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	津村 和大 <令和5年4月> 社会健康医学修士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	坂本 光男 <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	西脇 正夫 <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)
兼任	講師	野崎 博之 <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)
兼任	講師	定平 健 <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	栗林 徹 (63) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	玉井 博修 (57) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	津村 和大 (50) <令和5年4月> 社会健康医学修士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	坂本 光男 (58) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	西脇 正夫 (53) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)
兼任	講師	野崎 博之 (60) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)
兼任	講師	定平 健 (45) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	亀山 直史 (38) <令和5年10月> 医学博士 病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)
兼任	講師	栗林 徹 (64) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	玉井 博修 (58) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	津村 和大 (51) <令和5年4月> 社会健康医学修士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	坂本 光男 (59) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	西脇 正夫 (54) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)
兼任	講師	野崎 博之 (61) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)
兼任	講師	定平 健 (46) <令和5年4月> 医学博士 病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	原 智 ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	園部 秀樹 ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	重富 征爾 ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	鬼澤 勝弘 ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	西本 周平 ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	中田 さくら ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅴ(生殖器系、小児科)
兼任	講師	土橋 隆俊 ＜令和5年4月＞ 医学学士
		病態生理学Ⅴ(生殖器系、小児科)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	原 智 (51) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	園部 秀樹 (43) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	重富 征爾 (49) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	鬼澤 勝弘 (56) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	西本 周平 (42) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	中田 さくら (55) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅴ(生殖器系、小児科)
兼任	講師	土橋 隆俊 (54) ＜令和5年4月＞ 医学学士
		病態生理学Ⅴ(生殖器系、小児科)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	西尾 和三 (56) ＜令和5年10月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)
兼任	講師	出野 智史 (38) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	重富 征爾 (50) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	鬼澤 勝弘 (57) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	西本 周平 (43) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	中田 さくら (56) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅴ(生殖器系、小児科)
兼任	講師	土橋 隆俊 (55) ＜令和5年4月＞ 医学学士
		病態生理学Ⅴ(生殖器系、小児科)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	熊井 俊夫 (68) ＜令和5年4月＞ 医学博士 臨床薬理学
兼任	講師	美田 誠二 (71) ＜令和4年4月＞ 医学博士 感染と防御
兼任	講師	末松 直也 (62) ＜令和4年4月＞ 理学博士 代謝と栄養
兼任	講師	信岡 祐彦 (68) ＜令和5年4月＞ 医学博士 臨床検査学
兼任	講師	松浦 正明 (64) ＜令和5年4月＞ 医学博士 疫学・保健統計Ⅰ(基礎)
兼任	講師	石井 美恵子 (60) ＜令和5年4月＞ 医学博士 災害看護学Ⅰ(基礎)
兼任	講師	林田 丞太 (65) ＜令和5年4月＞ 法学博士 保健医療福祉行政論Ⅰ(基礎)
兼任	講師	吉田 みつ子 (53) ＜令和4年4月＞ 看護学博士 看護倫理学Ⅰ(基本) 看護倫理学Ⅱ(発展)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	熊井 俊夫 (68) ＜令和5年4月＞ 医学博士 臨床薬理学
兼任	講師	美田 誠二 (71) ＜令和4年4月＞ 医学博士 感染と防御
兼任	講師	末松 直也 (62) ＜令和4年4月＞ 理学博士 代謝と栄養
兼任	講師	信岡 祐彦 (68) ＜令和5年4月＞ 医学博士 臨床検査学
兼任	講師	松浦 正明 (64) ＜令和5年4月＞ 医学博士 疫学・保健統計Ⅰ(基礎)
兼任	講師	石井 美恵子 (60) ＜令和5年4月＞ 医学博士 災害看護学Ⅰ(基礎)
兼任	講師	林田 丞太 (65) ＜令和5年4月＞ 法学博士 保健医療福祉行政論Ⅰ(基礎)
兼任	講師	吉田 みつ子 (53) ＜令和4年4月＞ 看護学博士 看護倫理学Ⅰ(基本) 看護倫理学Ⅱ(発展)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	熊井 俊夫 (69) ＜令和5年4月＞ 医学博士 臨床薬理学
兼任	講師	美田 誠二 (72) ＜令和4年4月＞ 医学博士 感染と防御
兼任	講師	末松 直也 (63) ＜令和4年4月＞ 理学博士 代謝と栄養
兼任	講師	信岡 祐彦 (69) ＜令和5年4月＞ 医学博士 臨床検査学
兼任	講師	松浦 正明 (65) ＜令和5年4月＞ 医学博士 疫学・保健統計Ⅰ(基礎)
兼任	講師	石井 美恵子 (61) ＜令和5年4月＞ 医学博士 災害看護学Ⅰ(基礎)
兼任	講師	林田 丞太 (66) ＜令和5年4月＞ 法学博士 保健医療福祉行政論Ⅰ(基礎)
兼任	講師	吉田 みつ子 (54) ＜令和4年4月＞ 看護学博士 看護倫理学Ⅰ(基本) 看護倫理学Ⅱ(発展)

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	木曾 恵子 ＜令和4年4月＞ 地域研究博士
		比較文化論

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	木曾 恵子 (45) ＜令和4年4月＞ 地域研究博士
		比較文化論

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	木曾 恵子 (46) ＜令和4年4月＞ 地域研究博士
		比較文化論
兼任	講師	大橋 充代 (49) ＜令和5年4月＞ 農学博士
		人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理:筋骨格, 消化器, 泌尿器, 生殖器)
兼任	講師	田口 浩章 (51) ＜令和5年5月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)
兼任	講師	西村 空也 (42) ＜令和5年5月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)
兼任	講師	三浦 孝政 (39) ＜令和5年5月＞ 医学士
		病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)
兼任	講師	滝本 千恵 (48) ＜令和5年10月＞ 医学博士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)
兼任	講師	三田村 浩人 (38) ＜令和5年11月＞ 医学士
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

--

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

--

【令和4年度】

【辞任に伴う変更】

- ・大城健一教授辞任により、担当科目である「救急医療の実際」「災害看護学Ⅰ（基礎）」「災害看護学Ⅱ（発展）」から削除。なお、引き続き専任教員が当該科目を担うため、教育上の支障はない。
- ・逢坂佳宗講師辞任により、担当科目である「病態生理学Ⅱ（消化器・内分泌・免疫）」から削除。

【職位の昇格】

- ・令和3年12月教員審査により、青木恵美子が助教から講師へ変更。

【令和5年度】

- ・令和5年4月坂元昇教授担当科目増。令和4年12月教員審査済み。
- ・令和5年4月荒木田美香子教授担当科目増。令和4年9月教員審査済み。
- ・令和5年4月中島洋介教授就任。令和4年12月教員審査済み。
- ・令和5年4月佐藤文教授担当科目増。令和4年12月教員審査済み。
- ・令和5年4月五味麻美講師担当科目増。令和4年12月教員審査済み。
- ・令和5年4月中悠美講師担当科目増。令和4年12月教員審査済み。
- ・令和5年4月久貝波留菜助教就任。令和4年12月教員審査済み。
- ・令和5年4月窪島領子助教就任。令和4年12月教員審査済み。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織(学科連係課程実施学科)の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二(短期大学設置基準第三条の二)に基づく「連係協力学部等(連係協力学科)」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等(連係協力学科)ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
12	6	12	3	34	14	12	6	12	5	35	2
(12)	(6)	(11)	(4)	(33)	(2)						
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
12	6	12	5	35	14	12	6	12	5	35	14
[]	[]	[]	[+ 2]	[+ 2]	[]	[]	[]	[]	[+ 2]	[+ 2]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	3	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合は、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{35}{34} = \boxed{102.94} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{3}{35} = \boxed{8.57} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{14}{14} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	大城 健一	R4.3	選択	救急医療の実際	①	令和4年3月末に一身上の都合により就任辞退（1）			
				必修	災害看護学Ⅰ（基礎）	①				
				選択	災害看護学Ⅱ（発展）	①				
合計（D）							後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	講師	笠原（中山） 順子	R4.8	必修	サービスマネジメント論Ⅰ（基本）	①	R4.8.31付一身上の都合により辞任（3）			
				選択	サービスマネジメント論Ⅱ（実践）	①				
				必修	地域・在宅看護学方法論	①				
				必修	地域・在宅看護学演習	①				
				必修	地域包括ケア実践Ⅱ（継続看護）	①				
				選択	国際看護論	①				
				選択	家族看護学	①				
				必修	看護研究Ⅰ（基礎）	①				
				必修	看護研究Ⅱ（発展）	①				
				必修	在宅看護学実習	①				
				必修	地域包括ケア実習	①				
合計（F）							後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	8	科目	必修	8	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	11	科目	計	11	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）						
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）				
2	人	必修	10	科目	必修	10	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	14	科目	計	14	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{34} = 5.88 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>大城教授については、令和4年度の開学時に就任予定であったが、一身上の都合により急遽就任することが不可能となった。当該教員の担当科目については、2年次及び4年次の科目であり、他の専任教員が担当することから学生の履修への影響はないため、特に周知はしていない。(R4)</p> <p>並原(中山)順子講師は、本人の都合により令和4年8月31日付で退職し、当該教員の科目は1年後期以降の科目であり、他の専任教員が担当することから学生の履修への影響はないため、特に周知はしていない。(R5)</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和3年)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	【認可】 遵守事項 設置の趣旨・目的の達成のため設置計画に基づいて大学運営及び教育・研究活動は実施されている。 (4) (5)	履行済
認 可 時 (令和3年)	カリキュラム・ポリシーにおいて、授業科目を「人間理解の基礎」、「専門基礎」、「専門」の3つに区分し、当該3区分を総合的に学ぶことにより、地域包括ケアシステムに資する意欲、知識、技術を養うことが明示されているが、学生がそのことを十分に理解した上で各授業科目を履修し、ディプロマ・ポリシーの達成に資するよう、時宜に応じた周知徹底を図ることが望ましい。	【認可】 助言事項 ディプロマ・ポリシーの達成のため、1年では4月時点のオリエンテーションでカリキュラムの説明と三つのポリシーの関係性について説明を行った。また、1年生後期のオリエンテーションにおいて、前期の学習状況を踏まえて学習ポートフォリオを作成し、ディプロマ・ポリシーとの関係性を伝え、確認させた。(4) (5)	履行済 2年から3年次、4年次とディプロマ・ポリシーの達成状況について評価を行い学生に各授業科目を履修してディプロマ・ポリシーの達成に繋がっていくことを意識させるようにしている。
認 可 時 (令和3年)	模擬患者を活用する各授業科目については、到達目標を達成し、より充実した教育効果を得ることや教育の質を確実に担保する観点から、模擬患者に求められる事項等を精査し、それを踏まえた研修等を模擬患者に対してあらかじめ実施すること。	【認可】 遵守事項 模擬患者を活用する各授業科目 どれでも参加できるよう、模擬患者養成講座を開催し、研修を実施し、地域連携推進センター及び授業担当教員が、授業前の打ち合わせをした上で、授業を行うようにしている。 (4) (5)	履行済
認 可 時 (令和3年)	模擬患者を活用する各授業科目のシラバスについては、学生が授業科目の内容をあらかじめ理解できるようにする観点から、模擬患者を活用してどのような内容の教育を行うのか等について、より具体的な授業計画等の記載に改めることが望ましい。	【認可】 助言事項 模擬患者を活用する各授業のシラバスについて、模擬患者を活用するテーマについては、あらかじめシラバスで分かるように明示し、学習内容と模擬患者を活用することの関連づけが分かるようにしている。 また、科目責任者から授業前に模擬患者についての説明を行っている。(4) (5)	履行済
認 可 時 (令和3年)	一般入試の前期試験において、高等学校からの調査書を活用して、本学の履修上必要となる数学の学力を測ることを、受験者等にあらかじめ適切に周知すること。	【認可】 遵守事項 募集要項において、「特に数学の学力について、調査書を活用して学力を測る」文言を記載し、また高等学校向けの学校説明会においても、説明を行う等適切に周知を行った。(4) (5)	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
- 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】**
- ・ 令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。
- 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】**
- ・ 令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）（５）」と記載してください。
- 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】**
- ・ 「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 模擬患者を活用した演習について 模擬患者を活用する授業については、1年生で<看護コミュニケーション論Ⅰ（基本）>、2年生で<基礎看護学技術Ⅳ（フィジカルアセスメント）>、3年生で<公衆衛生看護学方法論>と<老年看護学演習Ⅱ（認知症ケア）>、4年生で<臨床推論>、<看護コミュニケーション論Ⅱ（発展）>を想定している。</p> <p>② 施設・設備 a 図書47,000冊 b 電子ジャーナル1パッケージ</p>	<p>①看護コミュニケーション論Ⅰの演習では、コミュニケーションにおける相互作用の意味について、それがどのように生じ、他者との関係性を築く上でどのように影響するのか等、実際の体験（看護面接の疑似体験）を通じて理解を深めることを意図している。当該科目は1年次5月開講の科目であり、学生は専門的知識を持たない状態である。そのため、「初めて出会う生活者としての他者」であれば本科目が意図する患者との出会いの場を再現することは可能である。そこで模擬患者の代替として、市内在住の高齢者にボランティアとして協力を依頼した。川崎市直営の大学であり町内会や老人会等との繋がりもあることから演習に必要な人数に協力いただくことは今後継続的に可能でありこの方法に沿った演習の運営が可能となると考えている。</p> <p>② 学生の修学環境を改善するため、図書の蔵書を48,179冊に、電子ジャーナルを3パッケージに増やした。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD・SD委員会を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和5年4月19日に第1回目の委員会を開催。教員1名欠席したが、その他委員はすべて参加した。

c 委員会の審議事項等

- ・FD・SDに係る研修計画の立案及び実施に関すること。
- ・学生による授業評価の企画、実施及び分析に関すること。
- ・本学のIRに関すること。

② 実施状況

a 実施内容

- ・川崎市地域包括ケアシステムに関する研修会

b 実施方法

- ・川崎市介護支援専門員連絡会会長を講師に、本学の教育理念の根幹となる川崎市地域包括ケアシステムにおける地域生活を支えるチームケアと看護師との連携を主とした講義と、それを受けて領域ごとのワークショップを実施。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和5年5月31日に開催予定。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施結果状況を踏まえ、授業等へフィードバックできるよう適切な取組を行っていく。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期前半、前期後半及び後期の各授業最終日に、ウェブを利用した授業評価アンケートを実施予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

大学ホームページ及び学生ポータルサイトへの公開を予定。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

令和5年度入学者選抜において、100人の定員に対し、636人の志願者が集まり、定員は充足され、学生は確保することができた。令和6年度に公表する自己点検・評価報告書において、設置の趣旨や教育課程等の総括評価を実施する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和6年度 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・機関別評価の評価機関については、公益財団法人大学基準協会を候補予定とし、令和9年度の受審に向けての学内体制づくりや情報収集業務について検討していく。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。